松下幸之助記念財団・教員フェローシップ

「木曽馬文化と草原の再生」プログラム報告書

9 月 15 日（金）～ 17 日（日）

神戸市立本庄小学校　主幹教諭　阪井園子

1 参加の動機

私は 30 年以上、小学校教諭として、環境教育や国際教育に携わってきた。その中で、2015 年「EARTHWATCH コスタリカのクジラとイルカ」のプログラムに参加し、調査の重要性や面白さを知ることができた。また、2018 年度「JICA 地球ひろば主催の国際理解教育/開発教育実践者向け研修、開発教育指導者研修」に参加し、6 年生で「摩耶っ子 SDG s にチャレンジ」を実践し発表した。それ以来、SDG s に関する取組も行い、環境の学習に力を入れてきた。昨年度は 3 年生で「とびだせ、グローバル・エコキッズ！」の実践を行い、その中で石田秀輝氏にもご来校いただき、「生物多様性」や「循環」について学んだ。今回は、日本の植物や生き物の調査を通して、より子供たちに身近な体験を得、学校現場に還元していきたいと考え参加した。

2 調査内容と調査での気付き

「木曽馬文化と草原の再生」プログラムは、日本在来馬のひとつ木曽馬の産地として古くから知られる木曽開田高原で、草地の花々を調査することが主な活動だった。調査中、秋の七草のキキョウ、ナデシコ、オミナエシ等が見つかった。また、ウメバチソウのように、私にとって初めて目にする野の花々の可愛らしさに魅了された。

草刈りもし、その草を集めて簡単なニゴ（干し草を乾かすために立てて積んだ物）を作ることにも挑戦した。この地域で行われている、伝統的な野焼きと草刈りは、採草地を再生し、木曽馬とともに育まれてきた地域の文化を復活させる活動として位置づけられているそうだ。草地を守ることは、その草を飼葉とする木曽馬を守ることにも繋がっている事を実感した。

実際の調査だけではなく、非常に興味深かったのは、木曽馬を中心とした地域の人々や組織・団体のつながりである。２泊３日の間に様々な方々と知り合った。中でも、小学校教諭である私にとって、開田小学校と繋がることができたのは大きな収穫であった。調査地が、開田小学校の裏手にあったため、偶然にも運動会で、６年生と木曽馬が勝負をするという場面に遭遇した。私のこれまでの教師人生では考えられない運動会だった。更に、日頃から学校とも繋がっておられる「ニゴと草カッパの会」の T さんのお陰で校長先生をご紹介頂くという機会を得た。そして、木曽の美しい自然の中で暮らす子供たちと、都会に暮らす神戸の子供たちを繋げたらという話にまで発展した。

3 調査活動を活かした授業実践の概要

小学校３年生において、「環境についての話」と「木曽の小学校とのオンライン交流会」を行った。

(1)「とびだせ、エコキッズ！かんきょうについて学ぼう」

3 年生では環境体験学習が行われる。その一環として、全 4 クラスに対して話をした。当初は、対面で 4 クラスをホールに集めて行う予定だったが、インフルエンザが流行っていたため、急遽サテライト方式で行うこととなった。私が３年１組で行う授業やパワーポイントの資料を、オンラインで各クラスに放映するという方法である。

まず、「地球でおこっている大変な問題」について昨年石田氏から教えて頂いたことも参考にしながら、「私たちは自然に生かされている」ことを伝えた。更に、地球環境を守る「アースウォッチ」の活動例として私のコスタリカでの話、そして今回の調査について話を進めた。話を聞いているだけではなく体験活動も入れたいと思い、５種類の花々の写真（シラヤマギク・シオガマギク・ノコンギク・ワレモコウ・マツムシソウ）を用意し、私が行った調査方法と同じように花の数を数える活動を行った。「シラヤマギク〇花」という言い方で各グループから声が上がった。その後、草地の調査がなぜ木曽馬と繋がるのか疑問を持たせ、「木曽馬文化と草原の再生」について話をした。最後に、木曽馬が走る開田小学校の運動会を紹介し、「自然あふれる木曽の小学校の３年生と友達になってみたくないですか？」と呼びかけて、オンライン交流会に繋いだ。

〔↑　パワーポイントの資料〕　〔↓　3年4組の板書〕　〔↑　グループ毎に渡した写真例〕

(2)木曽の小学校とのオンライン交流会

開田小学校の校長先生のご尽力で、王滝小学校、福島小学校、日義小学校にも参加頂けることになった。お陰で、単級が多い木曽の学校と、４クラスもある本校の３年生が、クラス毎に交流できることとなった。第１回オンライン交流会は、１２月、全ての学校、全９クラスが画面越しではあるが一堂に会してして行われた。それぞれの学校やクラスについて紹介し合い、今後交流を深めていく相手クラスを確認した。それ以降は、それぞれのクラス毎に担任同士で話し合い、交流計画を深めた。

３年１組（３０名）の相手は開田小学校（９名）と王滝小学校（２名）である。オンライン交流会では、５つのグループに分かれるブレイクアウトルームを利用して個人同士が関われるようにした。１月、第２回オンライン交流会では、それぞれのグループで１人１人の自己紹介や自分たちの学校や地域についての紹介を行った。その後、メールで「更に知りたいこと」をやり取りし、パワーポイントでグループ毎に発表資料を作った。２月、第３回オンライン交流会では、パワーポイントでうまく資料を共有できないというハプニングが生じたが、グループ内の違う児童のタブレットを見せながら紹介し、何とかやり遂げた。後日、手紙と共にパワーポイントの資料も印刷して送ることにした。予定されていたことは以上であるが、これで終わるのは寂しいと、もう一度３月にお楽しみ的なオンライン交流会をしたいという話になっている。

〔↑　画面越しに繋がる子供達〕　　〔→　子供達の手紙の裏面の絵〕

4　児童の感想

・木曽のみんなと話せてとても楽しかった。友達になれて嬉しい。
・緊張したけど、しゃべり出したらすごく楽しくなってきた。
・自分の好きなことや得意なことを伝えることができて嬉しかった。
・本庄小学校と似ているところや違うところがあって、おもしろかった。
・初めて知ったことがたくさんあって、驚いた。給食のキムタクご飯を、私も食べてみたい。
・木曽に行って、仲良くなった友達と、本当に遊びたい。

5　自身の体験を語ることによる子どもたちの学びへの影響について

教師には、本来研修の義務があるが、そもそも子供達の前に立つには、常にアップデートが必要だと日頃から考えている。教師自身が、興味関心を持って学び続ける姿勢・後ろ姿を見せることが、子供の興味関心を引き出すのではないだろうか。今回、私がこのプロジェクトに参加したことで、子供達の環境学習に深みを与えることができた。更に、木曽の小学校と繋がることができたことは大きな収穫であった。普段、自分達が住む地域から離れることの少ない子供達にとっては、同じ日本でも、全く環境の異なる木曽の子供達と交流し、他の地域を知り、自分達の地域を見直すきっかけとなった。子供達の世界観を少しでも広げることができたのなら幸いである。

6　終わりに

このプログラムに参加させて頂き、私自身、多くの学びを得ることができた。まずは、木曽の自然の素晴らしさである。実際に草地の花々を調査することは、愛媛の野山で子供時代を過ごした私にとって懐かしく、心躍る体験だった。次に、木曽馬を取り巻く人々の多様性である。今回お世話になった方々は地元の方だけではなく、移住して来られた方々も多かった。木曽は「そば」で有名だ。つまり、土地自体は痩せているということである。また、雪深く、暮らしていくのに厳しさもあることだろう。しかし、それを補って余りある、木曽の自然や木曽馬文化、人々の繋がりに魅力があるのだということが感じられた。来年以降も、ぜひ参加したいと思えるプログラムだった。

今回の調査において、貴重な機会を与えてくださった松下幸之助記念財団様をはじめ、アースウォッチ・ジャパンの関係者の方々、そして、現地でお世話になった皆様方、全ての出会いに感謝して、私の報告とさせて頂きます。